２　熱感知器の試験器

（１）加熱試験器

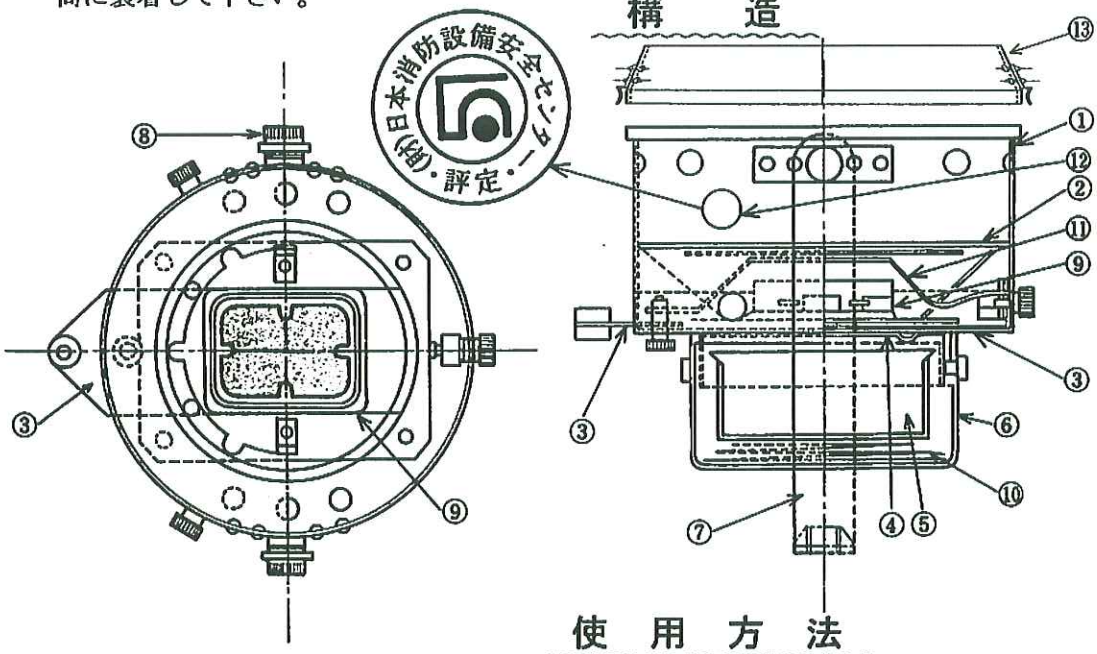
定温式、差動式スポット型の作動試験を行う。

社名	試験機型名	外形 写真又は図面	取扱説明書・図面番号 使用時の注意
(社)東京消防 設備保守協会	HK-3		HK-3 型加熱試験器使用説明書 注：燃料は白金カイロ用ベンジン。
日本ﾌｪﾝｵｰﾙ㈱	FHT-2E		防爆型感知器用加熱試験器 FHT-2E 取扱説明書 注：耐圧防爆用で熱源はお湯を使用。
能美防災㈱	HK-3		TN50104 注：FDL111 以外はｱﾀﾞﾌﾟﾀｰを使用。 注：燃料は白金カイロ用ベンジン。
	FTH011		TN50213・ TN50778 注：本質安全防爆用で熱源は発熱体を使用。
パナソニック電工㈱ (旧松下電工㈱)	BVT9201K		BVT9201K 注：燃料は白金カイロ用ベンジン。

HK-3型 加熱試験器使用説明書
(型式評定番号 TH−002号)

この加熱試験器は温度調節板を利用して差動式、補償式、定温式スポット型感知器の加熱試験を行うことができます。ただし、日本フェンオール㈱製の公称作動温度100℃以上の感知器は、別に用意された外筒(別途有料)に取替えて試験して下さい。なお、感知器高さの高いものを試験するときは、付属の補助筒を外筒に装着して下さい。

構　造



使　用　方　法

1．火口は、ハクキン火口(専用火口)を使用し、燃料は白金カイロ用ベンジンを使用して下さい。

2．燃料タンクへの最初の給油量は40cc以下を厳守して下さい。残量10cc以下にならないうちに次表によって補給して下さい。

感知器の種類	燃料10cc当り使用時間	補　給　量
定温式感知器	1.0時間	左の時間使用したときは10ccを補給して下さい。
差動式感知器 補償式感知器	1.5時間	

3．給油のときは⑥タンク保持筒を押し上げるようにして取り外し、次に⑤燃料タンクの④消火キャップを取り外した後、燃料タンク内の綿がしめる程度(40cc以下)にベンジンを注入して下さい。
取り外した消火キャップは紛失を防ぐため、燃料タンクの下部に添えて装着して下さい。

4．点火は、③温度調節板を最大に押しこみ、試験器を斜に倒して、マッチまたはライターで火口に点火して下さい。

5．点火後、火力の安定した状態を確めた後、③温度調節板を最大に押しこんだ位置で定温式を、また、引き出した位置で差動式及び補償式感知器の加熱試験ができます。

6．使用の途中で給油するときは、2．3の要領で行って下さい。

7．点火したままの試験器を手から離すときは、安全確保のため安定した床面等に横に倒して置いて下さい。

8．ハクキン火口を取り替えるときは、①外筒及び②反射板を取り外し、⑪火口脱落防止用ピンを外して取り替えて下さい。

9．消火及び収納のときは、⑥タンク保持筒を押し上げるようにして、⑤燃料タンクを取り外し、消火キャップを燃料タンクの口にかぶせて装着した後、火口の消火を確めて下さい。

10．この試験器は、製造年月から起算して10年以内に㈶日本消防設備安全センターの校正を受けることが必要です。

11．連続して５分以上の加熱試験は、行わないで下さい。

社団法人 東京消防設備保守協会
〈略称〉 保 守 協 会
〒162-0805 東京都新宿区矢来町81番地の３
電　　話 (０３) ５２６１－４１７５
フアックス (０３) ５２６１－４１６５

ご使用にあたって
取扱説明書を良く熟読し、内容を充分理解して下さい。
また取扱説明書は紛失しないよう大切に保管して下さい。

防爆型感知器用加熱試験器

ＦＨＴ-2Ｅ

取扱説明書

日本フェンオール株式会社

本製品に関する　住所　東京都千代田区飯田橋１－５－１０
お問い合わせは　連絡先　０３－３２３７－３５６５

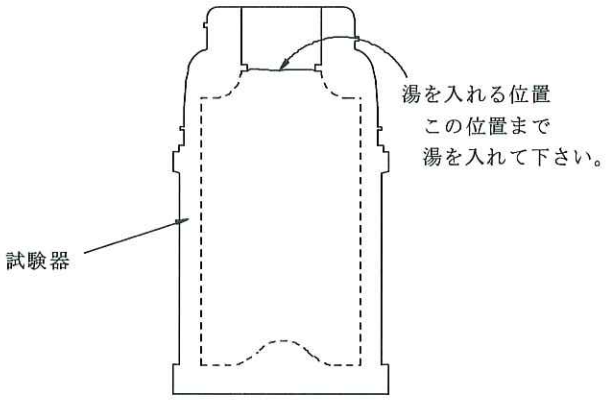
この加熱試験器を正しく安全にお使用いただくために

使　用　上　の　ご　注　意

①湯を入れる時は、必ず内蓋も外してから入れて下さい。

②！注意

試験槽に湯を入れる時は、下図の位置迄として下さい。この位置より多くいれると内蓋をする時に湯がこぼれて危険です。また、公称作動温度120℃以上の感知器を試験する時は、湯が少ないと作動しない場合があります。

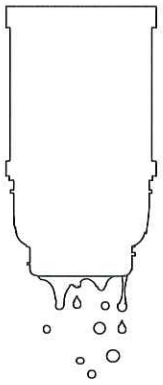


③試験槽には、湯以外は入れないで下さい。

④！危険

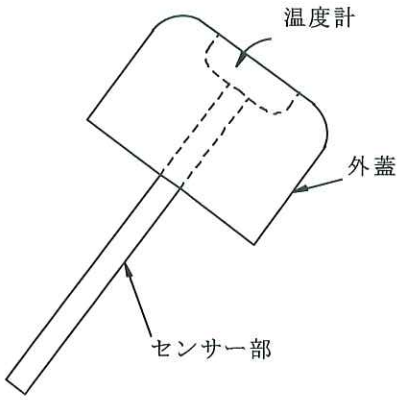
内蓋には、湯漏れ防止用のパッキンが装着されています。このパッキンが切れたり破れたりした時は、内蓋ごと交換して下さい。そのまま使用すると湯こぼれの原因となり危険です。

試験槽に水を入れ、下図の様な逆さの状態で水が続けて滴る時は交換して下さい。



⑤！注意

外蓋に装着されている温度計のセンサー部（下図参照）に衝撃を与えたり、曲げたりしないで下さい。湯温の測定が出来なくなることがあります。



⑥ 試験槽に湯を入れた後は、感知器の試験を行う時以外、外蓋を取らないで下さい。特に持ち運び時は、外蓋をしっかり閉めて下さい。

⑦ ！危険

感知器の試験を行う時は必ず内蓋をつけて行って下さい。内蓋を外して試験を行うと湯こぼれの原因となり危険です。

⑧この試験器は、（財）日本消防安全センターの認定品で、10年毎の校正が必要です。試験器本体の次期校正シールにて確認して下さい。

1. 概要

この試験器は、試験槽内に熱湯を入れて防爆型並びに垂直型の定温式スポット型感知器の動作試験を行うものです。試験時に火源を使用しないで防爆区画内においても試験することができます。

2. 動作原理

試験槽内の熱湯に定温式スポット型感知器（ＦＦＨ－１Ｅシリーズ）の感知部を浸すと、感知器が熱せられて作動します。なおＦＦＨ－１Ｈシリーズ型は、補償率方式（定温特性と差動特性を併せもつ方式）の感知器なので、湯温（最大 100℃）による急激な温度上昇により、公称作動温度 150℃の感知器を作動させることが出来ます。

3. 仕様

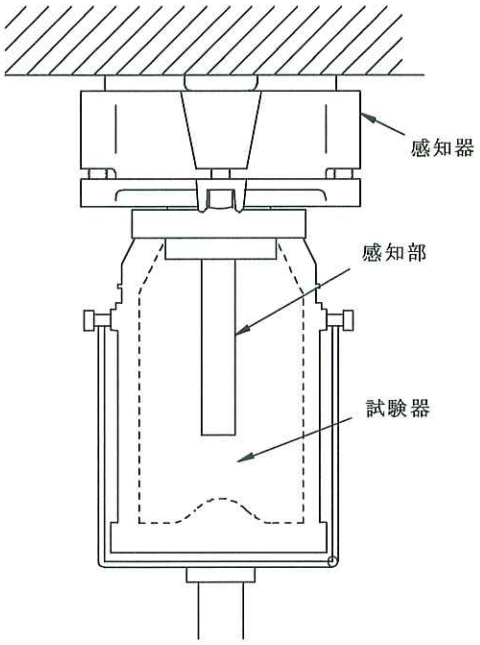
３－１　種　　別　　：加熱試験器
３－２　型　　式　　：ＦＨＴ－2Ｅ
３－３　評定番号　　：評 13－185 号
３－４　加熱媒体　　：湯
３－５　適合感知器　：下記の定温式スポット型感知器

防爆型	垂直型	型式番号
FFH-1E060	FFH-1EV060	感第　46～88 号
FFH-1E070	FFH-1EV070	感第　46～69 号
FFH-1E080	FFH-1EV080	感第　46～70 号
FFH-1E090	FFH-1EV090	感第 53～145 号
FFH-1E100	FFH-1EV100	感第 53～153 号
FFH-1E120	FFH-1EV120	感第　47～10 号
FFH-1E150	FFH-1EV150	感第 53～154 号

３－6　質　　量　　：約 400ｇ（湯の入っていない時）
　　：約 850ｇ（湯の入っている時、湯量約 450ｍＬ）

4. 試験方法

①試験器の外蓋及び内蓋を外して熱湯を入れ、内蓋をつけて下さい。
設置されている感知器の感知部が、試験器内に入るように試験器を当てて作動試験を行います。（下図参照）。規定時間の30秒以内に作動することを確認して下さい。支示棒への取付けは、付属ナットにて取付けて下さい。
ＨＫ－３型加熱試験器の支示棒への取付け可能です。

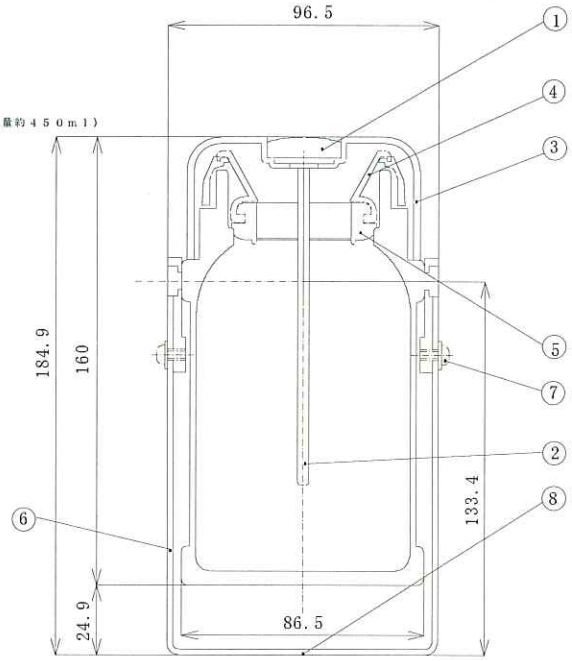


②作動試験を行う湯温の目安は、下表の通りです。外蓋に装着されている温度計で確認して試験を行って下さい。

感知器の公称作動温度	湯温
150℃	95℃以上
120℃	90℃以上
100℃	85℃以上
90℃	80℃以上
80℃	70℃以上
70℃	65℃以上
60℃	60℃以上

１．種　　別：加熱試験機
２．品　　番：ＦＨＴ－２Ｅ
３．評定番号　：評１３－１８５号
４．加熱媒体　：湯
５．重　　量：約４００ｇ（湯の入っていないとき）
　　約８５０ｇ（湯の入っているとき、湯量約４５０ｍｌ）
６．適合感知器：ＦＦＨ－１Ｅ型定温式
　　スポット型感知器
７．主要材質　：ステンレス

①温度計
②温度ｾﾝｻｰ
③外蓋
④内蓋
⑤パッキン
⑥ハンドル
⑦止めビス
⑧支持棒取付け位置



（添附図）

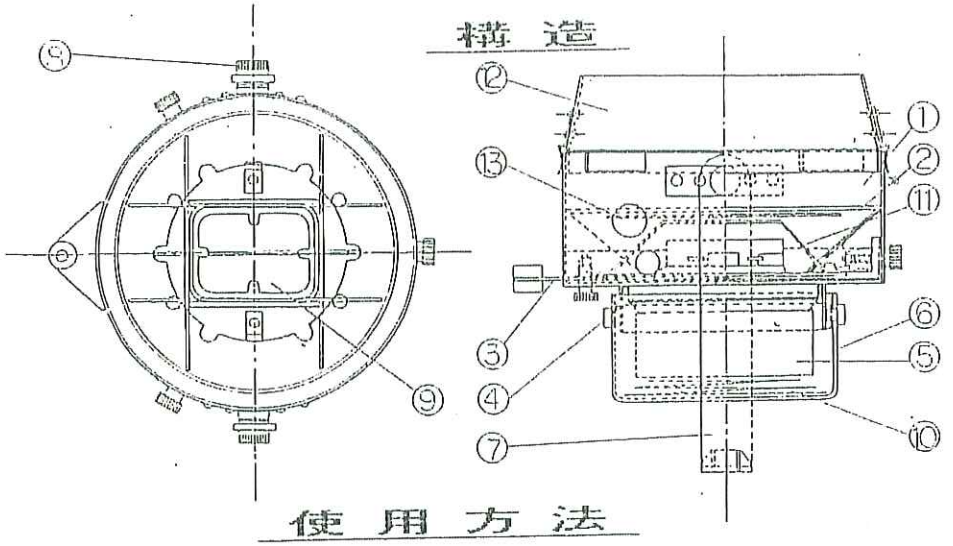
TN50104

HK－3型加熱試験器（能美仕様）使用説明書

（型式認定番号　TH－002号）

この加熱試験器は温度調整板を利用して差動式、補償式、定温式スポット型感知器の加熱試験を行うことができます。ただし、日本フェンオール㈱製の公称作動温度100 ℃以上の感知器及び当社製定温式感知器ＦＤＬ１１１型は⑫アダプターを取りはずして試験して下さい。

構造



凡　例

①外　筒
②反射板
③温度調整板
④消火キャップ
⑤燃料タンク
⑥タンク保持筒
⑦本体支持金具
⑧支持金具取付ネジ
⑨ＨＫ－３型専用火口
⑩スプリング
⑪火口脱落防止用ピン
⑫アダプター
⑬認定マーク

使用方法

感知器の種類	燃料10cc当り使用時間	補　給　量
定温式感知器	1.0時間	左の時間使用したときは10ccを補給して下さい。
差動式感知器 補償式感知器	1.5時間	

1．火口は、ハクキン火口（専用火口）を使用し、燃料は白金カイロ用ベンジンを使用して下さい。
2．燃料タンクへの最初の給油量は40cc以下を厳守して下さい。残量10cc以下にならないうちに右表によって補給して下さい。
3．給油のときは⑥タンク保持筒を押し上げるようにして取り外し、次に⑤燃料タンクの④消火キャップを取り外した後、燃料タンク内の綿がしめる程度（40cc以下）にベンジンを注入して下さい。取り外した消火キャップは紛失を防ぐため、燃料タンクの下部に添えて装着して下さい。
4．点火は、③温度調節板を最大に押しこみ、試験器を斜に倒して、マッチまたはライターで火口に点火して下さい。
5．点火後、火力の安定した状態を確めた後、③温度調節板を最大に押しこんだ位置で定温式を、また、引き出した位置で差動式及び補償式感知器の加熱試験ができます。※注
6．使用の途中で給油するときは、２．３の要領で行って下さい。
7．点火したままの試験器を手から離すときは、安全確保のため安定した床面等に横に倒して置いて下さい。
8．ハクキン火口を取り替えるときは、①外筒及び②反射板を取り外し、⑪火口脱落防止用ピンを外して取り替えて下さい。
9．消火及び収納のときは、⑥タンク保持筒を押し上げるようにして、⑤燃料タンクを取り外し、消火キャップを燃料タンクの口にかぶせて装着した後、火口の消火を確めて下さい。
10．この試験器は、製造年月から起算して10年以内に（財）日本消防設備安全センターの校正を受けることが必要です。

※注　差動式及び補償式感知器を夏場（気温の高い時）に試験する場合、引き出した位置で試験しますと作動しないことがありますので、③温度調整板を最大に押込んだ位置との中間の位置で使用して下さい。また、最大に押込んだ位置で、30秒以上試験を行いますと機器破損の恐れがありますので注意して下さい。

社団法人　東京火災報知設備保守協会
（略　称）保守協会
〒162　東京都新宿区矢来町８１番地の３
電　話（03）269－8611（代表）ﾌｧｯｸｽ（03）269－3119

販売元　能美防災工業株式会社
〒102　東京都千代田区九段南４－７－３
電　話（03）265－0211（代表）ﾌｧｯｸｽ（03）263－4948

連絡先　能美防災工業株式会社
〒151　東京都渋谷区本町３－５３－７
電　話（03）378－1411（代表）ﾌｧｯｸｽ（03）378－4940

TN50213

ＦＴＨＯ１１型　加熱試験器　取扱説明書

＜ この取扱説明書は、ご使用前に必ずお読みください。
また、使用後は大切に保管してください。 ＞

■安全にお使いいただくために

ここに示した注意事項は、製品を正しく安全にお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。記載内容を十分に理解し、必ず指示された内容に従ってください。

●危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取扱いをした時に想定される内容を、「危険」「警告」「注意」の３つに区別しています。

「危険」：取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うかまたは機器の機能に致命的な悪影響を及ぼすことが想定される内容。

「警告」：取扱いを誤った場合、重傷や傷害を負うかまたは機器の機能の一部に重大な悪影響を及ぼすことが想定される内容。

「注意」：取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うかまたは機器の機能に悪影響を及ぼす可能性が想定される内容。

絵表示の見方

左の記号は、危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです。

左の記号は、禁止の行為を告げるものです。

左の記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

警告

発熱中(化学反応中)の発熱体は高温になりますので、触らないでください。
火傷等の原因となります。

発熱中は試験器や発熱体を横にしないでください。
発熱体内容物の漏れによりおもわぬ怪我をする場合があります。

本体は当社指定の支持棒に取り付けてご使用ください。
作業中にはずれると危険です。

発熱体はガイドに確実に固定してください。
作業中にはずれると危険です。

ガイド(発熱体付き)は本体の奥まで挿入し、確実に固定してください。

自動火災報知設備の試験および保守点検は必ず消防法に定められた有資格者が行ってください。

警告(続き)

発熱体の取り外しは、確実に冷めていることを確認してから行ってください。
火傷等の原因となります。
※発熱体は水蒸気が発生後もしばらく高温を保ちます。
（使用(化学反応)開始時から１５分以上を目安としてください。）

発熱体は使用期限内のものをご使用ください。

発熱体は本書の記載による加熱試験以外の目的には使用しないでください。

支持棒を使用する場合は、周囲の安全に注意してお取り扱いください。

作業中に充電部や電線に触れないでください。感電などの恐れがあります。

高天井の場合は、足場を確保して試験を行ってください。

■概要

本試験器は、自動火災報知設備として使用される熱感知器の消防検査時および保守点検時に感知器が正常に作動するかを確認するための試験器です。
本試験器は、後記適合感知器欄に示す熱感知器の作動試験ができます。

■動作説明

本試験器は、発熱体(生石灰＋水)の化学反応により高温の水蒸気を発生させて熱感知器の作動試験を行います。
試験方法として火源を使用しないため、防爆地区内においても試験が行えます。(『適用ガス』範囲内)

■取扱い方法

① 新しい発熱体をガイドにねじ込み、本体の中へ押し込み装着します。
② 上部の穴より発熱体の中へ付属の木製押し込み棒を挿入し、強く押します。
③ 木製押し込み棒を引き抜き、発熱体に付属の専用パックにて水を注入してください。
（１個の発熱体に必要な水量は専用容器１杯(約40ml)です）
水と生石灰がまじり、化学反応を起こして発熱し、水蒸気が発生します。
④ 水蒸気がカバー内に充満します。
⑤ 設置されている熱感知器がカバー内に入るように試験器をあて作動試験を行います。
(規定時間内に感知器が作動することを目安としてください)
水蒸気が発生している間は試験可能です。(約４分間)
⑥ 感知器が規定時間内に作動しない場合、新しい発熱体を用いて再度試験を行ってください。
⑦ 発熱体を本体より取り外し、結露水を布等でふき取ってください。
再度、試験を行う場合は、新しい発熱体と交換してください。

注意	発熱体への注水は必ず付属の専用パックにて行ってください。 (発熱体１個に付き専用パックで１杯) 過剰注水およびその他の手段にて注水を行いますとおもわぬ怪我をする場合があります。

注意	
	発熱体を本体から取り外す際は、結露水などが衣服や敷物等に付着しないように注意してください。

■適合感知器

分布型を除く熱感知器。

ただし、定温式スポット型は公称作動温度９０℃以下
　　補償率方式の定温式スポット型は１００℃以下

☆参考：本試験器で試験可能な本安型熱感知器の例を表１に示します。

〈表１〉

種　別	型　名	国検型式番号
定温式スポット型感知器	ＦＤＬ１１６－１Ｗ－７５	感第５２～４３～３号
	ＦＤＬ９１６－１Ｗ－６５	感第５２～４２～４号
定温式スポット型（補償率方式）感知器	ＦＤＬ１２０－Ｅ－６０	感第６２～１０　号
	ＦＤＬ１２０－Ｅ－８０	感第６２～１２　号
	ＦＤＬ１２０－Ｅ－９０	感第６２～２　号
	ＦＤＬ１２０－Ｅ－１００	感第６２～３　号
差動式スポット型感知器	ＦＤＰ２１９－Ｉ	感第　３～５２　号
	ＦＤＰ２１６－Ｉ	感第６１～４３～３号
	ＦＤＰ２１４－Ｉ	感第５２～５０～１号
	ＦＤＰ１１４－Ｉ	感第５３～　９～１号

■判定基準

感知器は表２の時間内に作動することを目安としてください。

〈表２〉

作動時間／感知器	感知器の種別		
	特種	１種	２種
定温式スポット型	４０	６０	１２０
差動式スポット型	－	３０	３０

（単位：秒）

■適用ガス

防爆エリア内で使用する場合、適用できるガスは表３に示すものに限ります。

注意	
⚠	適用できるガスに十分注意してください。

〈表３〉

防爆対象適用ガス一覧			
アクリロニトリル	塩化エチル	ジアセトンアルコール	ナフタレン
アセトニトリル	塩化プロピル	シアン化水素	ピリジン
アセトン	塩化ベンジル	シクロプロパン	フェノール
アニリン	塩化メチル	１，２－ジクロロエタン	プロパン
アンモニア	ギ酸エチル	1,1－ジクロロエチレン	プロピルメチルケトン
一酸化炭素	ギ酸メチル	1,2－ジクロロプロパン	ベンゼン
エタノール	０－キシレン	０－ジクロロベンゼン	ベンゾトリフルオリド
エタン	０－クレゾール	ジクロロメタン	メタクリル酸メチル
エチルベンゼン	クロロベンゼン	Ｐ－シメン	メタノール
エチルメチルケトン	２－クロロエタノール	臭化エチル	メタン
エチレン	酢酸	スチレン	メチルアミン
エチレンオキシド	酢酸エチル	1,2,4-ﾄﾘﾒﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ	α－メチルスチレン
１，２エポキシプロパン	酢酸プロピル	０－トルイジン	コークス炉ガス
塩化アリル	酢酸メチル	トルエン	

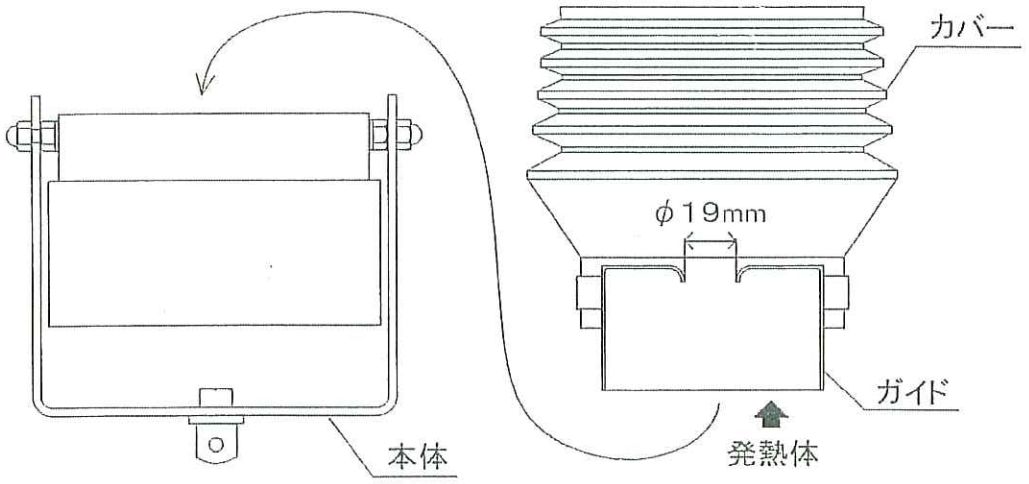
■保守・校正について

・本試験器は、(財)日本消防設備安全センターの性能評定品で１０年以内の校正が必要です。
（次期校正シールをご確認の上、当社または購入先へ校正を依頼して下さい。）

■仕様

型式	：ＦＴＨ０１１
性能評定番号	：評１３－１７７号（(財)日本消防設備安全センター性能評定品）
種別	：加熱試験器
試験器の方式	：生石灰と水の反応により水蒸気を発生させる。
最高温度	：約１００℃(ガイドのφ１９㎜試験孔より１０㎜上部)
発熱体	：ＦＴＨ０１１用発熱体(カートリッジタイプ・４個１組・消耗品・別手配)
発熱体使用期限	：発熱体に表記
使用時間	：約４分間／１発熱体(使用後の冷却時間：約１５分間)
付属品	：作動用押し棒（木製φ１８㎜）
支持棒（別売品）	：ＺＥＲ－Ｓ３型（長さ：収納時 980㎜, 伸長時2500㎜）
	ＺＥＲ－Ｌ２型（長さ：収納時1725㎜, 伸長時6000㎜）
質量	：本体組品；約６７０ｇ
	発熱体　；約１９０ｇ

■外観図



NOHMI　能美防災株式会社

本社　〒102-8277　東京都千代田区九段南４－７－３
ＴＥＬ（０３）３２６５－０２１１

〔支社〕

北海道	(011)746-6911	東　北	(022)221-2695	新　潟	(025)228-0281
東　京	(03)3265-0401	茨　城	(029)225-2600	北関東	(048)642-0147
千　葉	(043)266-0303	西関東	(0426)27-4930	横　浜	(045)682-4700
長　野	(026)227-5521	静　岡	(054)247-3211	名古屋	(052)915-2411
金　沢	(076)252-6211	大　阪	(06)6330-8661	京　都	(075)231-0128
神　戸	(078)334-3581	広　島	(082)263-7333	岡　山	(086)244-4222
九　州	(092)712-1560	熊　本	(096)360-1051		

ＦＴＨ０１１用発熱体　取扱説明書

〈この取扱説明書は、ご使用前に必ずお読みください。また、使用後は大切に保管してください。〉

安全にお使いいただくために

ここに示した注意事項は、製品を正しく安全にお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。記載内容を十分に理解し、必ず指示された内容にしたがってください。

●危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取扱いをした時に想定される内容を、「危険」「警告」「注意」の３つに区別しています。

「危険」：　取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うか、または機器の機能に致命的な悪影響を及ぼすことが想定される内容。

「警告」：　取扱いを誤った場合、重傷や傷害を負うか、または機器の機能の一部に重大な悪影響を及ぼすことが想定される内容。

「注意」：　取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うか、または機器の機能に悪影響を及ぼす可能性が想定される内容。

●絵表示の見方

⚠　左の記号は、危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです。

⃠　左の記号は、禁止の行為を告げるものです。

❗　左の記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

⚠ 警告

⃠	発熱体のみで、使用しないでください。必ず、本体に装着した状態で使用してください。火災・火傷の原因となります。
⃠	発熱中（化学反応中）の発熱体は高温になりますので、触らないでください。火傷等の原因となります。
⃠	発熱中は、試験器や発熱体を横にしないでください。発熱体内容物の漏れにより、おもわぬ怪我をする場合があります。
⃠	発熱中は、本体を覗き込まないでください。火傷等の原因となります。
⃠	発熱体に水以外は、注入しないでください。本体または周囲に損害を与え、人に対して危害を及ぼすおそれがあります。
⃠	発熱体の取り外しは、使用（化学反応）開始時から２０分以上経ってから行ってください。発熱体は水蒸気発生後もしばらく高温を保ちますので、火傷等の原因となります。
⃠	発熱体を分解しないでください。火災・火傷・化学物質による被害の原因となります。
❗	自動火災報知設備の試験および保守点検は、必ず消防法に定められた有資格者が行ってください。
❗	発熱体はガイドに確実に固定してください。作業中にはずれると危険です。
❗	ガイド（発熱体付き）は本体の奥まで挿入し、確実に装着してください。
❗	水は確実に５０ｍｌ注入してください。未反応物質により、火災・火傷の原因となります。
❗	発熱体に水を注入すると発熱し、水蒸気が発生します。火傷等の原因となりますので、一気に素早く注入してください。
❗	発熱体は使用期限内のものをご使用ください。
❗	発熱体は熱感知器の消防検査時、保守点検時の加熱作動試験以外の目的には、使用しないでください。
❗	発熱体を本体から取り外す際は、水平にして取り外してください。結露水などが衣服や敷物等に付着するおそれがあります。

構成

・ＦＴＨ０１１用発熱体カートリッジタイプ（４個／使用期限は発熱体に表記）
・５０ｍｌボトル（１個）

取扱い方法

① 付属のボトルに水を５０ｍｌ入れてください。（図１）
② 新しい発熱体をガイドにねじ込み、本体の中へ押し込み装着します。（図２，３）
③ 上部の穴より発熱体の中へFTH011付属の木製押し込み棒を挿入し、押し込み棒が発熱体の底に当たるまで押し込んで下さい。（図４）この時発熱体表面のアルミシールと不織紙が破れます。
④ アルミシールと不織紙が破れ、完全に穴が空いていることを確認し、本体を水平にしてから本体試験孔（φ１９）より素早く５０ｍｌの水を注入します。（図５）

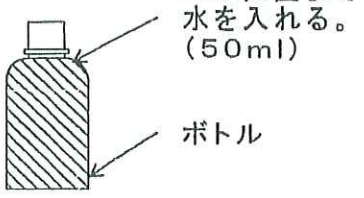
> **警告** ⊘ 水以外は入れないでください。本体または周囲に損害を与え、人に対して危害を及ぼすおそれがあります。

⑤ 水を注入してから約３０秒は試験を行わないでください。化学反応を安定させます。

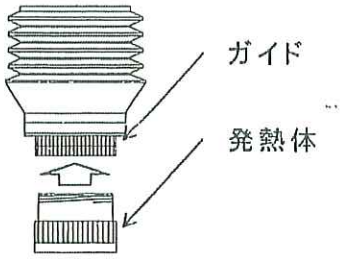
> **警告** ⚠ 本体は３０秒間水平に維持してください。反応中の水が漏れるおそれがあります。

⑥ 設置されている熱感知器がカバー内に入るように試験器をあて作動試験を行います。
（規定時間内に感知器が作動することを目安としてください。）
※水蒸気が発生している間は試験可能です。（約４分間）
⑦ 感知器が規定時間内に作動しない場合、新しい発熱体を用いて再度試験を行ってください。
⑧ 発熱体を本体より取り外し、結露水を布等でふき取ってください。再度、試験を行う場合は、新しい発熱体と交換してください。

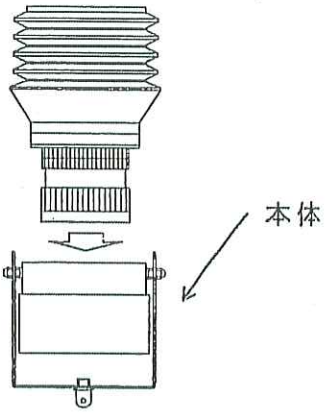
＜図１＞



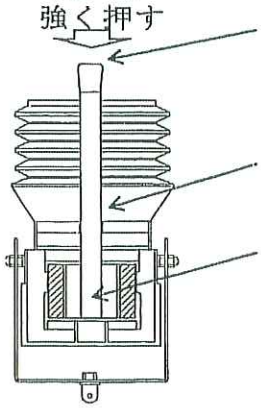
＜図２＞



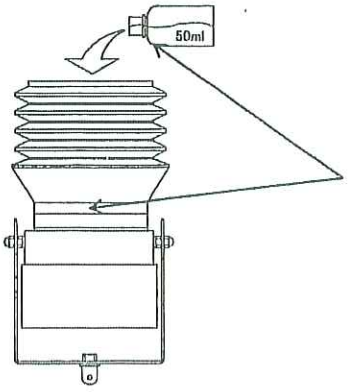
＜図３＞



＜図４＞



＜図５＞



NOHMI 能美防災株式会社

［本社］〒102-8277　東京都千代田区九段南４－７－３　TEL（03）－3265－0211

［支社］

北海道	(011) 746-6911	東　北	(022) 221-2695	新　潟	(025) 228-0281	東　京	(03) 3265-0401
茨　城	(029) 225-2600	北関東	(048) 642-0147	千　葉	(043) 266-0303	西関東	(0426) 27-4930
横　浜	(045) 682-4700	長　野	(026) 227-5521	静　岡	(054) 247-3211	名古屋	(052) 915-2411
金　沢	(076) 252-6211	大　阪	(06) 6330-8661	京　都	(075) 231-0128	神　戸	(078) 334-3581
広　島	(082) 263-7333	岡　山	(086) 244-4222	九　州	(092) 712-1560	熊　本	(096) 360-1051

National 加熱試験器セット（支持棒付）BVT9201K
加熱試験器ヘッド BVT92011K

取扱説明書
（保管用）

●お買い上げありがとうございます。
●ご使用まえに必ずお読みいただき大切に保管してください。
●この商品で熱感知器の点検を行うには、消防設備士（甲種第4類・乙種第4類）または消防設備点検資格第2種の資格が必要です。

注 ●加熱試験器ヘッド（BVT92011K）には、支持棒はセットされていません。

■付属品
●取扱説明書（本紙）… 1枚
●収納袋 …… 1コ

ご使用まえに
●この商品は熱感知器（差動式・定温式・補償式スポット型）の加熱試験をする機能を持っています。

安全上のご注意
ケガや事故防止のため、以下のことを必ずお守りください。

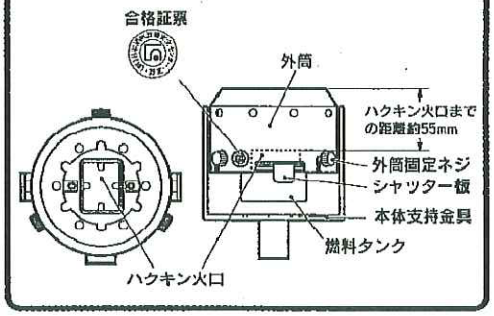
⚠警告
●作業中に充電部や活線に触れないでください。
感電などのおそれがあります。
●支持棒の絶縁部（灰色）にやぶれなどがないことを確認してください。破損していると感電などのおそれがあります。
●高所作業となる場合、転倒・落下などの危険があります。
足場の確保など安全に作業できるようご留意ください。

⚠注意
●点火した状態の試験器を仮置きするときは、可燃物のない安定した床面などに置いてください。
火災のおそれがあります。

●使用しないときは、必ずハクキン火口を消火してください。
火災のおそれがあります。
●外筒・燃料タンクなどは、熱くなっていますので素手でさわったり、熱に弱い物に直接当てないようご注意ください。やけどをしたり、他の物品を破損するおそれがあります。
●機器を分解したり、当社の支持棒以外に取り付けたり、改造はしないでください。故障の原因となります。
●着火中は、ハクキン火口に可燃物が触れないように注意してください。火災のおそれがあります。

使用上のご注意
●出荷時に試験をしていますので、開梱時ベンジンのにおいがする場合があります。
●この試験器は（財）日本消防設備安全センターの性能評定品です。
（性能評定番号　評14-124号）
●この試験器は、製造年月から起算して10年ごとに校正を行う必要があります。
●校正のときは、弊社営業所までお問い合わせください。
●ご使用後は、外筒・燃料タンクの温度が下がったことを確認してから子供の手の届かないところに保管してください。
●ご使用後は、ハクキン火口にホコリが溜ったりしないように、必ず付属の収納袋をかぶせて保管してください。
●ご使用後は、支持棒を縮めてください。
●傾斜した天井に取り付けられた定温式スポット型感知器に使用すると、感熱部に熱が伝わりにくく、作動時間が極端に長くなる場合があります。

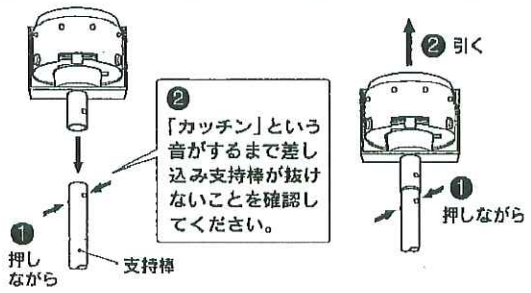
各部のなまえ



お手入れ
外筒・燃料タンクが汚れた場合は、次の方法でお手入れください。
●ふだんのおそうじは…
やわらかい布でふき取ってください。
●汚れが目立つときは…
中性洗剤を薄めた液にやわらかい布を浸し、固く絞ってふき取ってください。
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書にしたがってください。）
注 ●ベンジンなどは引火性があるため危険ですので、使用しないでください。

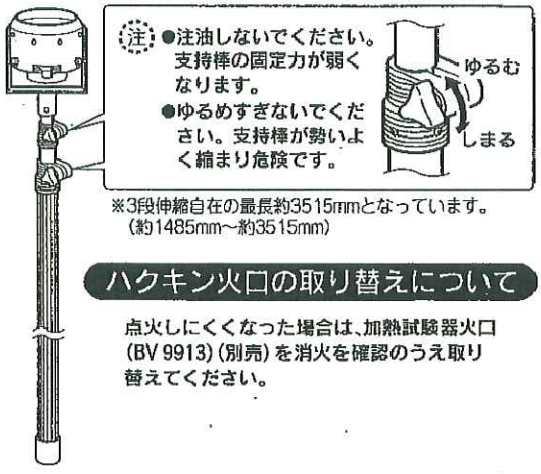
試験器の取り付け・取りはずしかた

■取り付けるとき　■取りはずすとき



支持棒の長さ調整・固定のしかた

注 ●加熱試験器ヘッド（BVT92011K）には、支持棒はセットされていません。



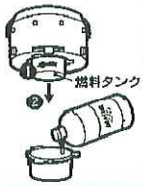
注 ●注油しないでください。支持棒の固定力が弱くなります。
●ゆるめすぎないでください。支持棒が勢いよく縮まり危険です。

※3段伸縮自在の最長約3515mmとなっています。
（約1485mm～約3515mm）

ハクキン火口の取り替えについて
点火しにくくなった場合は、加熱試験器火口（BV 9913）（別売）を消火を確認のうえ取り替えてください。

使用方法
注 ●燃料は白金カイロ用ベンジンを使用してください。

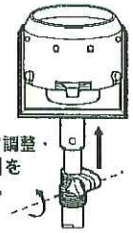
❶ 燃料タンクを取りはずし、燃料タンク内の綿がしめる程度に、ベンジンを注入する
（燃料タンクの容量は約40ccです。）



注 ●入れすぎるとこぼれ、着火するおそれがあります。

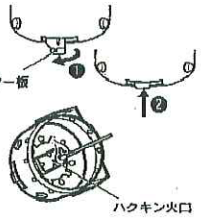
❷ 燃料タンクを取り付ける
（ガタツキがないことを確認してください。）

❸ 天井高さに合わせ支持棒を調整する



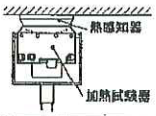
注 ●「支持棒の長さ調整・固定のしかた」を参照ください。

❹ ハクキン火口に点火する
●火力が安定するまで、約10分かかります。
❶シャッター板を一度引いて、左に移動させ、押し込む。
❷試験器を斜めに倒して、マッチまたはライターで点火する。
（やけどしないよう注意してください。）



注 ●約4時間の試験ができます。
●火力が弱ってきたときは、消火を確認後 ❶、❷ の順でベンジンを補給して再度点火してください。
●着火すると、外筒・燃料タンクなどは、熱くなっていますので素手でさわったりしないでください。やけどをするおそれがあります。

❺ 試験をする

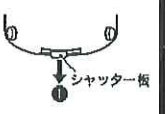


■判定基準

感知器 ＼ 感知器の作動時間	感知器の種別 特種	1種	2種
差動式スポット型 補償式スポット型	——	30秒以内	
定温式スポット型	40秒以内	60秒以内	120秒以内

● ただし定温式スポット型については、周囲温度と公称作動温度との差が50℃を越える場合は、作動時間を2倍にすることができます。（点検試験基準による。）
注 ● 作動を確認後、速やかに加熱試験器を取りはずしてください。
加熱しすぎると感知器が破損するおそれがあります。

❻ ハクキン火口を消火する
●シャッター板を一度引いて、右に移動させ、押し込む。
（外筒から少し出た状態で止まりロックがかかります。）



注 ●試験終了後は、必ず火口の消火を確認してから、保管してください。

〔〒571-8686〕大阪府門真市門真1048 パナソニック電工株式会社 TEL（06）6908-1131（大代表）

8A2 588 00002
302-2